お札と切手の博物館ニュース

Banknote and Postage Stamp Museum News

Contents

特　　集　2021年、お札と切手の博物館が50周年を迎えました

展覧会追録　令和3年度夏の特集展
（切手の国の探検隊 150年 知られざる切手ヒストリー）より
印刷局が編み出す「特色」と重ね刷りの美

2021/12/1
Vol. 49

1971

2021

2021年 お札と切手の博物館は50周年を迎えました！

昭和46（1971）年に大蔵省印刷局（現国立印刷局）創立100年を記念して創設されたお札と切手の博物館は、本年で50周年を迎えました。これまで博物館の活動にご理解・ご協力くださりありがとうございます。

これからもお札や切手などについて楽しく学べるよう展示内容の充実を図ってまいります。引き続きご支援よろしくお願いいたします。

ここでは、創設から現在に至るまでの博物館の沿革をいくつかのトピックを通じて振り返ります。

○創　設

国立印刷局の歴史は、明治4(1871)年に大蔵省内に紙幣司として創設されたことに始まります。昭和46年（当時は大蔵省印刷局）に創立100周年を迎え、その記念事業として東京都新宿区市谷本村町に地下1階、地上7階建ての印刷局記念館が建設されました。

印刷局記念館には、職員に技術等の教育を行う教習所や運動場、テニスコート、プールなどの印刷局の厚生施設と併せて、印刷局事業の普及宣伝を図るために日本銀行券や切手などの印刷局の製品や印刷・製紙に関する各種資料を展示する施設が設置されました。

これが、お札と切手の博物館の始まりです。

記念館の1階に展示室、2階に特別展示室を設け、1階では印刷局製品やそれらの製造工程の紹介を行い、2階では歴代のお札や過去に製造した製品を展示していました。

印刷局記念館の外観（昭和期）

開館時の展示室風景
1階展示室（左）
2階展示室（右）

記念館ゆかりの市谷

記念館が建設された場所は、かつて印刷局が本庁舎と活版印刷工場を構えていた場所でした。

明治期以来、東京大手町にあった本庁舎は、第二次世界大戦時に被災したため、点々と場所を変えながら戦後を迎えました。戦後、大手町の土地はGHQに接収されたため、活版印刷工場（のちの市ヶ谷工場）は昭和20年に、本庁舎は昭和21年に新宿区市谷の旧陸軍予科士官学校の跡地に移転することとなりました。大手町の土地の接収解除後、検討の結果、本庁舎と工場は国会や諸官庁に近い虎ノ門へ移転することを決定し、昭和37年に新庁舎と虎の門工場が落成しました。

そして、本庁舎と工場の移転跡地に記念館が建設されることとなったのです。

市谷の本庁舎（昭和23（1948）年ころ）

本局・市ヶ谷工場の表門（昭和23（1948）年ころ）

●お札と切手の博物館略年表●

昭和21（1946）年

市谷に本庁舎移転。

昭和46（1971）年

大蔵省印刷局創立100周年の記念事業として印刷局記念館を本庁舎跡地に建設。
館内に展示施設を設置。

昭和52（1977）年

はとバスの社会見学ツアーのコースに展示室が組み込まれる。

昭和56（1981）年

開館10周年記念展開催。

記念品として配布されたしおり

○展示内容の充実と博物館活動

記念館展示室は、開設以降、社会見学の小中学生を多く受け入れてきましたが、昭和52(1977)年に、はとバスの社会見学コースに組み入れられたことで、更に団体の来館者を増やすこととなりました。

開館10周年を迎えた昭和56年以降、展示内容や設備の更新が次々と行われていきます。

昭和59年の日本銀行券Dシリーズの発行記念特別展の開催に伴って銀行券の製造工程や視聴覚設備の更新を行ったほか、平成元(1989)年には印刷局案内や新製品など事業紹介を行うコーナーが新設されました。

特別展示は、開館記念などの行事がある時に開催してきましたが、平成5年以降は年に1～2度と定期的に開催するようになりました。

なお、博物館のコレクションを、テーマを決めて展示する企画展も平成19年より定期的に開催し、展示の幅を拡げました。

平成6年には、記念館の創設から20年以上が過ぎたこともあり、施設の老朽化や運営目的の変化によって展示施設の方針にも見直しが図られ、これまでの単に事業を紹介する施設から文化活動を行う施設としての活動へと転換していく方針を決定しました。これを機に「お札と切手の博物館」という愛称が決定され、日本博物館協会に入会したほか、博物館活動や収蔵資料の情報提供の場として博物館ニュースの刊行を開始しました。

日本銀行券Dシリーズ発行記念展の様子
昭和59(1984)年

愛称決定に伴い新しくバナーを設置
平成6(1994)年ころ

昭和61(1986)年

開館15周年記念展開催。

記念品として配布されたしおりと凹版画

平成6(1994)年

愛称「お札と切手の博物館」決定。

印刷局創設日(7月27日)をお札づくりの日に制定。

『お札と切手の博物館ニュース』創刊。

お札と切手の博物館ニュース
創刊号

平成10(1998)年

収蔵するスタンホープ印刷機が国の重要文化財に指定される。

スタンホープ
印刷機

それとともにお札や切手を歴史・文化・経済的側面から解説するような展示構成としたほか、日本銀行券の偽造防止技術の体験コーナーを新設するなど展示内容の一層の充実が図られました。

この年、印刷局の事業に対する認知度の向上と日本銀行券への関心を高め偽造の抑止に資することを目的に印刷局の創立記念日である7月27日を「お札づくりの日」に制定されました。これを機に博物館では特別展を開催しています。

平成15年には印刷局が独立行政法人国立印刷局となったことに伴う組織再編によって印刷局記念館は市ヶ谷センターと名称を変え、博物館は文化事業と国立印刷局の広報的支援との両輪で活動を行うこととなります。

○王子への移転

平成21年、国立印刷局事業に対する抜本的な見直しが行われた結果、市ヶ谷センターを国庫返納することとなりました。博物館は国立印刷局王子工場展示室があった場所への移転を決定し、翌22年末に市谷での39年間の活動を終えました。移転先の東京都北区王子には、国立印刷局で一番古い工場があることから、事業の歴史を紹介する博物館が居を構える地としては適した場所と言えます。

平成23年の移転後も引き続き博物館活動を通じて国立印刷局の事業や製品についての情報提供を行う施設としての活動を行っています。平成26年には収蔵資料の検索サービスを開始し、令和3年にコロナウイルス感染拡大を受けて新しい生活様式に即した非接触型体験装置への転換を図ったほか、ホームページ上で動画によるWeb展示を行うなど、より安全に分かりやすい情報提供のための取り組みを行っています。

（学芸員　松村　記代子）

平成13（2001）年

開館30周年記念展開催。

開館30周年記念誌

平成15（2003）年

印刷局の独法化に伴う組織再編で印刷局記念館が国立印刷局市ヶ谷センターとなる。

平成22（2010）年

市ヶ谷センターでの博物館活動を終了。

平成23（2011）年

国立印刷局王子工場旧展示施設へ移転する。

令和3（2021）年

お札と切手の博物館創設50周年を迎える。

お札づくりの日記念特別展展示会場
平成7(1995)年

改修された2階展示室
平成13(2001)年時

フットスイッチ式の偽造防止技術体験装置
令和3(2021)) 年

展覧会
追録

令和３年度夏の特集展「切手の国の探検隊 150年 知られざる切手ヒストリー」より

印刷局が編み出す「特色」と重ね刷りの美

令和3年7月28日（水）～8月29日（日）まで、夏の特集展「切手の国の探検隊 150年 知られざる切手ヒストリー」を開催しました（図1）。

本展は、日本の切手誕生150年を記念するとともに、日本の切手製造メーカーである印刷局も創立150年を迎えることから、その歩みの一端を紹介しようと企画しました。会場では、歴代の日本切手や世界の新旧の珍しい切手等を集め、切手のデザインや技術の移り変わりと、バラエティに富む「小さな芸術品」の魅力をご紹介しました。

ここでは、その「小さな芸術品」を表現する特別な色と、印刷工程を記録した珍しい資料とともに、印刷局の職人技をご紹介します。

図1
特集展会場風景

無二の資料 切手の単色刷り・重ね刷り

図2
東京2020オリンピック・パラリンピック
競技大会切手帳専用シート　令和3(2021)年
完成品（左）とカラーマーク（下）

©JSC（東京2020公式ライセンス商品）
©Tokyo 2020

図3　単色刷り（上段）①黄、②赤、③銀　（下段）④青、⑤黒、⑥暗青

図4 重ね刷り

切手の「単色刷り」とは、文字通り、切手に使われる各色を個別に印刷したものです（図3）。そして、これらの色を段階的に刷り重ねた印刷物を「重ね刷り」といいます（図4）。これらは、発行元の日本郵便株式会社から許可を得たうえで、実際に当該切手を印刷している最中に特別に採取したもので、当館でしか見ることができない、唯一無二の資料となっています。

現在、日本の切手は入札制度によって、印刷局以外の国内外の印刷会社でも製造しています。他社製の切手は、主に青・赤・黄・黒の4色を基本としたオフセット印刷を採用していますが、印刷局製の切手は、主にグラビア印刷を採用しています。「セル」と呼ばれる規則的なくぼみを作り、その大きさや深さで色の濃淡を表現する方式で、色の深みや鮮やかさといった点で、優れた再現性をもっています。その屋台骨ともいえるのが刷色（インキ）で、印刷局では、すべて特別に設計した色（特色）を使っています。

なお、切手に使われる色は、完成品からも辿ることができます。切手シートの下部などに「カラーマーク」と呼ばれる印があり（図2）、どの色をどの順番で刷り重ねているかを示しています。

「小さな芸術品」切手趣味週間切手

そこでご紹介したいのが、令和2（2020）年に発行された「切手趣味週間」切手の単色刷り・重ね刷りです。

ちなみに、「切手趣味週間」とは、切手の芸術性と、切手収集の趣味とを普及するために設定された、4月20日（郵政記念日）を含む1週間のことです。これを記念して、毎年、日本の代表的な絵画作品をモチーフとした切手が発行されています。

本切手は、江戸時代の画家・尾形光琳（こうりん）の「紅白梅図屏風」をデザインしたもので（図5）、グラビア6色と凹版1色によって再現されています。これらを単色刷りで見ると、以下のような色となっています（図6）。

図5 切手趣味週間
令和2（2020）年
（上）完成品
（下）カラーマーク（右端が凹版）

図6 単色刷り
（上）①黄、②金、③赤、④青
（下）⑤褐、⑥黒、⑦黒（凹版）

印刷局が使うインキは、研究部門において顔料から選び抜いたもので、発色の濃度が濃く、鮮やかな色再現ができるよう内製しています。そして、印刷を担当するプロが、特色同士の組合せ（混色）を加味し、独自の色に調合したインキを使ってズレなく印刷することで、原画に即した美しい表現が可能となるのです。

「紅白梅図屏風」は、時代を経た屏風の「金」の濃淡の再現、白梅と紅梅の枝と水流の「茶」の差異などに注目すると、単色のみではどのような色に仕上がるのか想像がしづらいですが、重ね刷りの工程を見ると、それらが見事に再現されていく様子が分かります（図7）。

図7 重ね刷り

なお、「紅白梅図屏風」を全く同じ構図で取り上げた切手が過去に発行されています（図8）。およそ50年前に、印刷局が①金、②にぶ緑、③赤、④灰黒のグラビア4色のみで印刷したものですが、これを現在と比べると、何より金インキの彩度が上がり、光沢感が増し、凹版による細密画線が加わったことによって、より精緻な表現へとアップデートされていることが分かります。

こうした印刷工程を表す資料を含め、メーカーならではの視点から、今後も「小さな芸術品」に込められた技や魅力を紹介していきたいと思います。

（学芸員　土井　侑理子）

図8 「紅白梅図屏風」の切手
（上）第1次国宝シリーズ第7集　昭和44（1969）年
（下）切手趣味週間　令和2（2020）年

1

令和３年度 冬の特集展

祭～切手で魅せるふるさと～

2

令和４年1月18日（火）～3月27日（日）

切手は本来郵便制度を支えるツールですが、そのデザインを通して、情報伝達手段としての役割もあります。なかでも、平成元（1989）年より発行が始まったふるさと切手は、地方の経済発展、観光振興につながるメッセージを伝える役割が期待されてきた切手です。

本展ではふるさと切手のモチーフの中でもくり返し採用されてきた「祭」を題材にしたものに注目し、ふるさと切手において「祭」切手がどのような役割を果たしてきたのか、そしてこれらの切手の様々な表現に使われた印刷技術について解説します。

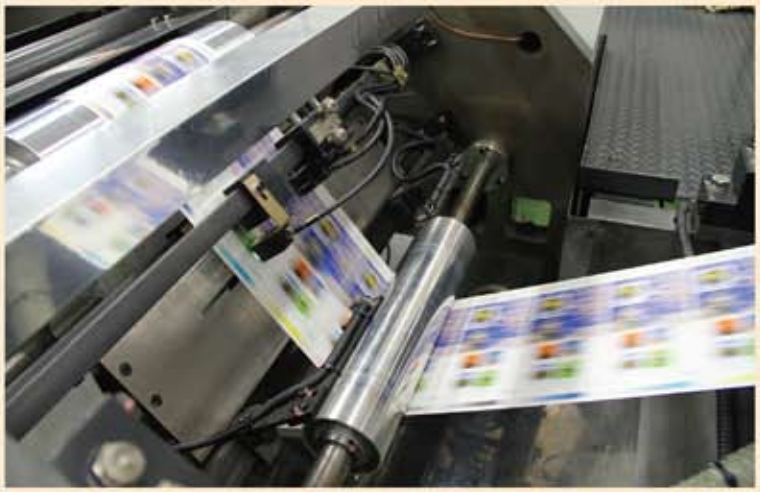
3

4

5

6 7

8


9

1 エイサー（沖縄県）　平成7(1995)年
2 長崎くんち（長崎県）　平成6(1994)年
3 仙台七夕まつり（宮城県）　平成11(1999)年
4・5 秩父夜祭（埼玉県）　平成12(2000)年
6・7 ふるさとの祭シリーズ第1集より
　阿波おどり（徳島県）平成20(2008)年
8 ふるさと心の風景第6集　祭の風景より
　十日戎（大阪府）　平成21(2009)年
9 グラビア輪転印刷機

ご利用案内

入館無料

開館時間：9:30-17:00
休 館 日：月曜日（祝日の場合は翌平日）
年末年始、臨時休館日
※やむを得ず開館時間等を変更する場合があります。詳しくはホームページをご覧いただくか、電話にてお問い合わせください。

独立行政法人 国立印刷局
お札と切手の博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-6-1
TEL.03-5390-5194
https://www.npb.go.jp/ja/museum/
お札と切手の博物館　検索

交通

JR京浜東北線「王子駅」（中央口）下車 徒歩3分
東京メトロ南北線「王子駅」（1番出口）下車 徒歩3分
都電荒川線（東京さくらトラム）「王子駅前」下車 徒歩3分
＊駐車場はありません。

常設展

偽造防止技術の歴史―印刷技術・製紙技術
偽造防止技術体験コーナー
重要文化財 スタンホープ印刷機
お札の移り変わり/世界のお札/
切手の移り変わり/世界の切手/
国立印刷局の歴史/世界のめずらしいお札/
お札の芸術（休止）
＊特別展開催時は一部展示の変更があります。

発　行：お札と切手の博物館（国立印刷局博物館）
発行日：令和3年12月1日

©2021
本書掲載の内容を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

※この冊子は再生紙を使用しています。